

全国曹洞宗青年会

# SOUSEI

2013.08 No.162

特集

第20期スタート

「想いを繋げる」第一歩へ踏み出す

# 街へ



繋がる想いが未来を拓く

平成25年5月、全曹青の第20期がいよいよスタートしました。第20期は、昭和50年に発足した全曹青が創立40周年を迎える大きな節目。この節目は、大衆教化の接点を求めて、という全曹青の原点を踏まえながら、今後の全曹青のあり方を会員一丸となつて検討する大きなチャンスです。東日本大震災復興支援活動の継続を図りながら、未来の全曹青を切り拓くこの大きな節目の青写真を皆さまにお伝えするべく、今号では第20期の組織のあらましとその活動内容を特集いたします。

# 特集 第20期 スタート

## 「想いを繋げる」第一歩、踏み出す

### 櫻井尚孝

全国曹洞宗青年会 第20期会長

### （所信表明）

今期全国曹洞宗青年会は、40年という節目を迎えます。40年の歴史を紐解くと、諸先輩宗師の研鑽の賜物と地に足をつけ着実に歩んでこられた礎があります。今その責務を引き継ぎ、担うことの重さを痛感しております。未曾有の被害をもたらした東日本大震災、また他の地域でも自然の猛威による様々な災害が起こっています。そして政治経済の混乱、日々激しく変化する情勢に人々は一喜一憂し心労を重ね、先の見えぬ不安に一縷の望みを見出そうとしているのが現状であります。

私共青年宗侶にも課題が山積しております。反面、活躍の場を求められているのも事実です。今こそ、大衆教化の接点を求めて、という会発足の原点に立ち戻らなければならないのです。全国会員諸兄と共に歩みを進め、真摯に取り組んでまいります。

#### ■第20期を想いを未来に繋げる機会に

第20期は「繋がる想いが未来を拓（ひらく）」をスローガンに掲げ活動してまいります。諸先輩宗師からの様々な想いが繋がり、今期全曹青は40年を迎えます。我々には先輩宗師から託された、大衆教化の接点を求めて、という強い想いを未来に繋げるという責任があります。そして繋げていくことが、未来

を拓き全曹青の可能性を拡げていくのだと確信しております。未来の為に今出来ることを一生懸命行っていくことが大事なのです。全国の会員諸兄と共に熱く強い気持ちを持って歩んでまいり所存です。更には第20期全曹青出向者全員が強固な繋がりを持ち、歴史を継承しつつ新たな足跡を残すよう邁進してまいります。

#### ■40周年記念事業の3つの柱は、「海外での徒弟研修会」「傾聴研修会」「精進料理教室」

今期40周年記念事業を行います。実行委員会を組織し、委員会を中心に活動してまいります。活動の中で40周年のその先にある50周年という大きな節目を見据えた事業

展開に取り組みます。以上を踏まえ、記念事業は3つの柱を軸に企画いたします。

まずは青少年教化に力を注ぐことです。全曹青の連絡協議体として、各曹青会からの情報を収集・共有できるといふスケールメリットを生かし、全国各地寺院の徒弟を一堂に会しての研修を行うことを計画しております。現在各宗務所単位で徒弟研修が行われていますが、宗務所の枠を超え、海外で行うことに意義を求めます。当云において第13期から第17期まで活動していた青少年教化委員会の実績を踏まえながら、今後更に必要になってくる素養として国際的な視野を持ち、若いうちに世界を知ることの重要性を感じていただきたいと思います。

次に、第19期の災害復興支援現地本部を拠点に行った行茶活動などで大きな役割を果たした「傾聴」を深く学び、活動の裾野を拡げていくことです。傾聴は我々僧侶が、様々な場面で人々に渴望されている活動であると捉えます。活動にあたり今一度基本から学び直し、更に人として深みを増すことが必要となります。会員諸兄の第18期基幹事業委員会を中心に構成された「観世ふおん」特別委員会と協同し、宗侶として修練となる研修会を企画してまいります。

3つ目は、周年事業を機会に典座・「食」に注目することです。道元禪師は典座教訓の中で典座職の重要さと功德の大きさを示して下さっております。この飽食の時代と言われて久しい現代であるからこそ、改めて私たちが生きていく上で必要不可欠である「食」に取り組みます。

■災害復興支援の取組を継続

平成23年3月11日、この日を境に日本中が大きく変化しました。それまでの固定観念は根底から覆ることになり、現実を受け入れることの難しさを学びました。個人の無力さも痛感しました。そのような状況だからこそ形成された連帯感や一体感、そこから大きな「絆」と繋がりが出来たのも事実です。災害復興支援は全曹青にとって重要な活動の一つです。第17期まではボランティア委員会が担っていたものを本部で引き継ぎました。宗務庁も被災地において更に積極的な復興活動を始められます。曹洞宗東日本大震

災害対策本部復興支援室が設けられ、福島市内に分室が置かれる運びとなりました。東日本大震災発災直後から今日まで間断なく続けてきたこれまでの活動が評価されて実現したものであります。各曹青の皆さま方におかれましては、これまで通りご協力ご支援を何卒よろしくお願いいたします。

■未加盟青年会の全曹青加盟を目指して

また長年に亘る全曹青の課題にも取り組んでまいります。全国曹洞宗青年会と標榜しておりますが、独自に様々な活動事業を行っている未加盟の青年会が存在している実情です。我々の活動に新しい刺激を与えて下さるよう未加盟の青年会に全曹青の意義と活動を伝え、加盟をお願いしてまいります。

■全日本仏教青年会と連携しての、国際青年仏教徒交換プログラムへの協力

最後に国際活動に積極的な全日本仏教青年会とは、第19期全曹青から理事長を輩出したことにより、これまで以上に繋がりが密になりました。平成25年8月にWFBY(世界仏教徒青年連盟)のIBYE(国際青年仏教徒交換プログラム)が福島県で開催されます。この難値難遇の勝縁を生かし、協力することにより国内宗門関係者・檀信徒だけに留まらず世界の仏教者・世界の人々にも全曹青の活動を発信してまいります。結びにあたり、宗門御寺院様・全国会員諸兄には、これまで同様のご協力とご支援をお願い申し上げます。 合掌

第20期組織のあらまし

会長・副会長・事務局

総合企画委員会

- 布教促進ツールの提案・頒布
- 頒布にかかる受発注、在庫管理に関する業務
- 他委員会が企画・制作した頒布物の管理
- オンラインショップの管理

広報委員会

- 広報誌『SOUSEI』の編集
- 曹洞宗宗報掲載「そうせい号外」の編集
- ホームページ『般若』及び『facebook』の運営

40周年記念事業実行委員会

- 青少年教化事業『海外徒弟研修』の企画・運営
- 研修事業『傾聴研修会』の企画・運営
- 一般対象事業『味来食堂～僧食を学ぼう～』の企画運営
- 『創立40周年記念式典』の企画・運営
- 40周年記念誌『40+ (コンマルプラス)』の編集・発刊
- 40周年記念事業『facebook』『Twitter』の制作・運営
- 各種法要の準備及び随喜

特別委員会

災害復興支援部

- 災害時の後方・中間支援

『観世ふおん』特別委員会

- 電話相談『観世ふおん』の運営

国際特別委員会

- 全日本仏教青年会との連携促進

# 執行部・各委員会・管区理事の紹介



## 【執行部】

- 会長 櫻井尚孝 静岡第三同志会
- 副会長 安達瑞樹 兵庫第二宗務所青年会
- 副会長 岩崎哲秀 熊本県曹洞宗青年会
- 副会長 膝館晋哉 青森県曹洞宗青年会
- 顧問 松岡広也 曹洞宗静岡県第一宗務所青年会
- 顧問 村山博雅 大阪曹洞宗青年会
- 事務局長 倉島隆行 三重県曹洞宗青年会
- 会計 松本尚仁 静岡第三同志会
- 総合企画委員長 原 知昭 いずも曹洞宗青年会
- 広報委員長 長岡俊成 青森県曹洞宗青年会
- 40周年記念事業実行委員長 荒木道宗 北海道第一宗務所青年会
- 事務局次長 山田俊哉 秋田県曹洞宗青年会

## 【広報委員会】

- 岡本真宰 曹洞宗長野県第一宗務所青年会
- 宮入真道 曹洞宗長野県第一宗務所青年会
- 井上一洸 四国地区曹洞宗青年会
- 加藤芳憲 北海道第三宗務所青年会
- 鬼頭大輝 曹洞宗岐阜県青年会
- 西古孝志 いずも曹洞宗青年会
- 田中昭範 京都曹洞宗青年会
- 長岡宏宗 広島県曹洞宗青年会
- 横山岳洋 福岡県曹洞宗青年会
- 柳澤隆徳 曹洞宗長野県第一宗務所青年会

## 【40周年記念事業実行委員会】

- 神作紹道 宮城県曹洞宗青年会
- 加藤月海 大阪曹洞宗青年会
- 河口智賢 曹洞宗山梨県青年会
- 川本哲志 四国地区曹洞宗青年会
- 岸本隆志 曹洞宗鳥取県青年会
- 斎藤秀光 北海道第一宗務所青年会
- 永島昌英 新潟県曹洞宗青年会
- 野田志裕 宮崎県曹洞宗青年会
- 渡邊亮弘 東三河曹洞宗青年会

## 【総合企画委員会】

- 岡島典文 愛知県第一曹洞宗青年会
- 酒井泰寛 曹洞宗長野県第一宗務所青年会
- 小原智弘 茨城県曹洞宗青年会
- 角田仁哉 佐賀県曹洞宗青年会
- 栗原祥弘 北海道第二宗務所青年会
- 日向真学 岩手県曹洞宗青年会
- 宮本隆弘 四国地区曹洞宗青年会

## 【管区理事】

- 北海道 神谷俊英 北海道第一宗務所青年会
- 東北 渡辺和弘 曹洞宗福島県青年会
- 関東 鈴木泰仁 曹洞宗埼玉県第一宗務所青年会
- 東海 渡津恵正 東三河曹洞宗青年会
- 北信越 青木彰徳 曹洞宗長野県第二宗務所青年会
- 近畿 森 孝基 滋賀県曹洞宗青年会
- 中国 城市泰紀 石見曹洞宗青年会
- 四国 里野和敬 四国地区曹洞宗青年会
- 九州 田中光顕 熊本県曹洞宗青年会

# 管区理事ごあいさつ

各管区に所属する曹洞宗青年会の相互連絡を図り、また、全曹青の理事として全曹青と各曹青会との橋渡しや情報共有を担う管区理事。今号と次号の2回にわたり、各理事の所信をご紹介します。

## ◆北海道管区理事 神谷俊英

北海道管区理事の神谷俊英です。全曹青40周年という記念すべき素晴らしい機縁に管区理事として関わることになり身が引き締まる思いです。全曹青の事業は、全国の会員諸師の協力なくしては成り立ちませんし、周年事業となれば尚更です。だからこそ各曹青会の相互連絡を図るとい



## ◆東北管区理事 渡辺和弘

この度、任期満了に伴う役員改選に当たり東北地協会長の座をお預かりすることになりました。福島県青年会に属します渡辺和弘と申します。未曾有の出来事から2年、早いもので大祥三回忌を迎えました。未だ悲しみが癒えずのように復興支援が進まない現状で不自由な生活を送られている方がたに改めてご冥福、お見舞いを申し上げます。今一番願うことは、



に還元することが私の役割であるとも感じております。会員相互が乳水合し、自由で創造的な活動の躍進の一助となりえるように管区理事の責務を果してまいります。何卒よろしくお願いたします。

只々一刻も早く復興し震災前の平穏な生活に戻ることのみです。震災発生時、炊き出しや、物資運搬等無我夢中で行っていた復興支援活動ですが、5月に開催されました「東日本大震災 活動報告書平成23―24年度」の資料によりまずと、全国の曹洞宗青年僧が2年

間で延べ約4,000人復興支援活動に参加されたことが報告されました。曹洞宗青年僧の層の厚さを感じさせられました。私もこの内のひとりとして活動してまいりましたが、これからは前地協会長並びに東北地区各青年会と連絡を取り合い、ご教導を賜りながら「東北はひとつ」のスローガンに基づき、微力ながら被災地の復興支援、東北管内各青年会への促進及び相互協力に務める次第であります。どうぞ2年間よろしくお願いたします。

## ◆関東管区理事 鈴木泰仁

はじめまして。関東管区理事の鈴木泰仁と申します。曹洞宗埼玉県第一宗務所青年会より参加させていただきます。任期も半分が過ぎましたが、初心を忘れる事無く、現執行部とともに、よりよい全国曹洞宗青年会を目指し日々精進してまいり所存です。よろしくお願いたします。関東管区理事と申しましても、管内の半分しか、全曹青に加盟していない地区であり、集まる時も連絡協議会での親善ソフトボール位です。九管区中一番横の繋がりの希薄な地域なのかもしれません。ただその現状が悪いことばかりではないのかもしれない。実際に



未加盟の曹青会の、周年祝賀会に何度か出席させていただきましたが、いずれの祝賀会も大盛況であったこと、そして先輩諸師から受け継いできた伝統を引き継いでいこうとする強い信念と結束力は、加盟団体と遜色のない様に見られたからです。評議会等の横の繋がりは本当に素晴らしい活動の一環であることは、否定されようのない事実だと思いますが、過干渉しないことも大事なところなかなとも思います。多々書き連ねてまいりましたが、私の所信の挨拶に代えさせていただきます。

## ◆北信越管区理事 青木彰徳

この度、全国曹洞宗青年会北信越管区理事を務めさせていただきます。だくことになりました。曹洞宗長野県第二宗務所青年会所属、松本市大松寺副住職青木彰徳と申します。



今回、40周年という節目にあたる第20期の北信越管区理事を務めるにあたりまして、正直申しますと、私でいいのか、私に務まるのかという不安の気持ち一杯であります。しかし、「任に当たって他に譲りがたし」縁あって与えられたこの役を、任期の2年間全力で務めたいと思

全曹青に関わるのは初めてです。本当に右も左も分かりません。執行部の皆さま、他管区理事さま方には多大なご迷惑をおかけするかと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。二年間よろしくお願ひいたします。

## ◆東海管区理事 渡津恵正

東海管区理事を務めさせていただきます。渡津恵正と申します。先の5月26日の第37回東海管区大会では、約1,000人の一般檀信徒を迎え盛大に開催することができました。協力いただいた関係の皆さまにあらためて御礼申し上げます。管区理事として、初めは何も分らず戸惑っていましたが、今年は理事2年目を迎えます。理事としての責任とプレッシャーも感じながら今まで以上に全曹青の活動に参加していきたいと思っております。さらに現在40周年記念事業を控えています。東海管区はもちろん全国の青年会会員が、積極的になおかつ円滑に行事等に参加できるようつとめていきたいと思っております。至らぬ点多々あるかとは思いますが、精一杯精進する所存でありますのでよろしくお願ひいたします。



# どう変わった？ 全曹青の災害復興支援活動

東日本大震災発災から約2年。被災された方々は多くの支援を必要とされています。また、日本中至る所でいつ災害が起きてもおかしくない状況は変わりません。全曹青では東日本大震災復興支援の継続と、来る災害への備えを万全にするため、このほど災害復興支援活動の組織体制変更と、全曹青災害メーリングリストへの登録者拡充のための活動を開始いたしました。皆さんの積極的なご参加をお待ちしております。

## どう変わった？ ①

### 「曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室」が福島市内に開設

これまで、伊達市成林寺様に置かれていた「全曹青災害復興支援現地本部」の機能が、「曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室」（福島県福島市置賜町の佐平ビル8階805号室）に移管されました。復興支援室分室は、福島駅より徒歩5分の場所に位置し、交通の利便性が良く、ビルの1階から7階までが駐車場となっている機動性のある環境です。デスクスペースとは別にミーティングスペースなども設けられています。今後、復興支援室分室と全曹青災害復興支援部は、協働体制で東日本大震災等の復興支援活動に取り組むこととなります。平時・災害発生時の情報共有体制の確立、減災のための各種研修などを通じて災害対応力を高め、個々に寄り添う活動を継続していきます。被災地で支援活動をお考えの皆さまは、是非その足掛かりとしてお気軽にお立ち寄りください。

## どう変わった？ ②

### 「全曹青災害メーリングリスト」への積極登録を呼びかけています

全曹青災害メーリングリストは平成23年3月11日の東日本大震災発災即日からスタートし、加盟団体を中心に約160人の登録者で運営しています。各地災害や、特に東日本大震災では個々が情報を提供し合い、被災地の状況や要望、支援の輪をつなぎました。全曹青ではこれからも起こりうる災害に備え、メーリングリストの参加者を募り、日本各地で即時に共有できる情報網を整備してまいります。

- ・全曹青の連絡協議体というスケールメリットを活かし、災害発生時に、被災地の被害状況・ニーズ・支援の要望を挙げてもらい、迅速なる情報の共有を行って支援活動をお手伝いいたします。
- ・参加資格は特に制限はありませんが、災害発生時はもちろん、平常時にも情報提供にご協力をお願いいたします。
- ・災害に備え、研修会などの情報、また福島曹洞宗復興支援室(分室)の情報を随時発信いたします。

全曹青災害メーリングリストへの登録は…

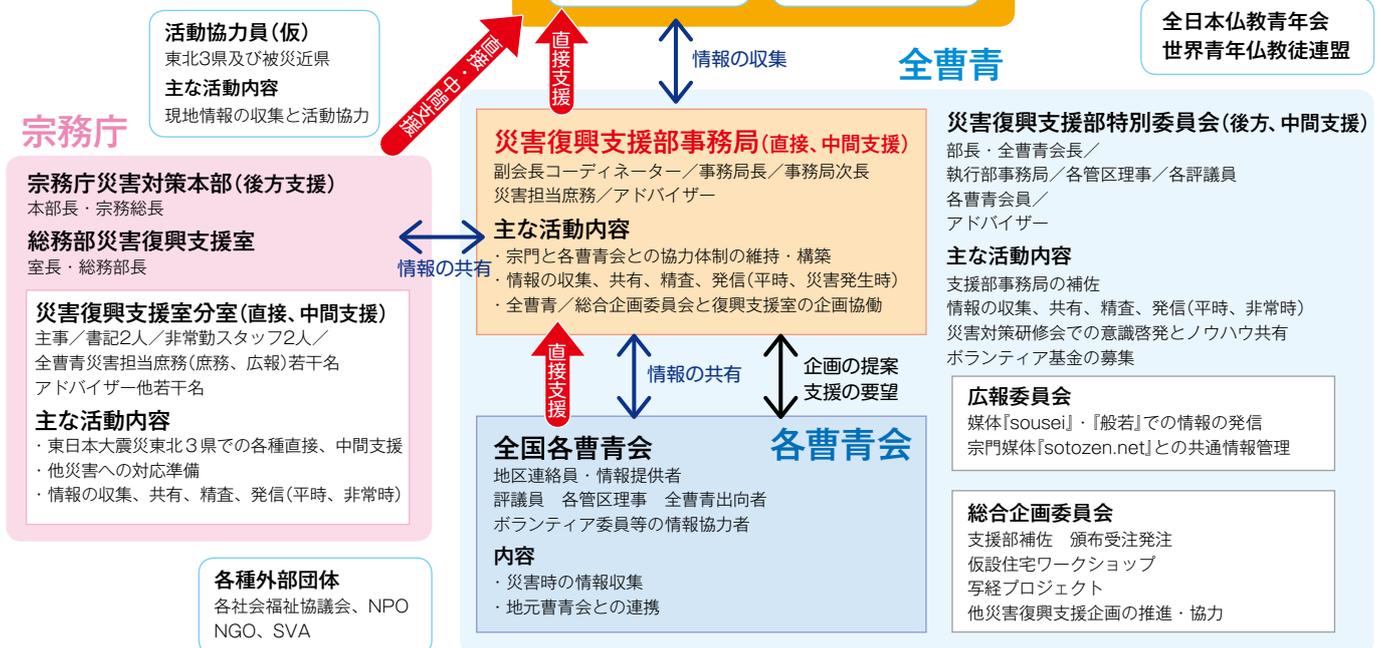
全曹青ホームページ『般若』

<http://www.sousei.gr.jp/>

※ Top ページ右上の「全曹青災害復興支援部災害 ML 登録フォーム」からお願いします。

## 全国曹洞宗青年会 災害復興支援概要

日頃の情報共有、発信、連絡を密にすることが大切であり、発災時にはこれが大きな力となる。また、たえず体制については検討を進めていくのが望ましい。



# 曹洞宗東日本大震災災害対策本部 復興支援室分室開所式

平成25年5月30日、「曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室」(以下、分室)の開所式が行われました。分室が開設されたことにより、5月21日に閉所した全曹青の災害復興支援現地本部(伊達市成林寺内)の機能は移管されました。

開所式では坂野浩道総務部長が導師を務められ、宗務庁総務部・復興支援室関係者、分室職員、全曹青の関係者で開所諷経と東日本大震災物故者供養諷経が分室事務所内で執り行われました。

法要後に坂野総務部長より「まだまだ先の見えない復興に対して、分室の活動が少しでも被災者の支えとなり、心に寄り添うことを祈念します」旨の挨拶があり、分室常勤者へ辞令が伝達されました。

分室のスタッフは次のとおりです。

○常勤(主事)久間泰弘師(第18期全曹青会長)  
／災害復興支援部アドバイザー

○常勤(書記)佐藤正兼師(前災害復興支援現地本部事務局員)

○常勤(書記)斎藤光輝氏

○非常勤 伊藤和貴師(全曹青庶務／災害復興支援部事務局長)

○非常勤 村木彩子氏

また、全曹青からは内藤宏信師(全曹青庶務)が積極的にお手伝いさせていただきます。分室は、福島駅東口より徒歩5分の場所

に位置し、交通の利便性が良く、職員の手ススペースとは別にミーティングスペースなども設けられています。

今後、分室と全曹青災害復興支援部は協働体制で、東日本大震災の復興支援活動に



取り組んで参ります。

更に、平時と災害発生時の情報共有体制の確立、減災のための各種研修などを通じて災害対応力を高めていきます。

被災地では、震災から2年を機にボランティア活動に携わる個人や団体が減少している等の報道が散見されますが、今なお災禍の苦しみは続いており、今後とも支援活動を通じ、被災地と向き合い続ける姿勢が求められています。

復興には、より多くの方や団体の協力無しでは成り立ちません。被災地での支援活動をお考えの皆さまは、是非お気軽にお声掛け・お立ち寄りください。

最後になりましたが、この分室の立ち上げに際しまして、本場に多くの方がたのご協力とご支援を頂戴いたしました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。同時に、旧に倍してのご支援とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

曹洞宗東日本大震災災害対策本部

復興支援室 分室

住所 ・・・〒960-0803 福島県福島市置賜町1-29 佐平ビル8階 805号室

電話 ・・・024-563-4305

FAX ・・・024-563-4306

携帯 ・・・080-8201-1193

Eメール ・・・sien.soto@gmail.com

Facebook ・・・曹洞宗復興支援室分室／全曹青災害復興支援部

守り伝えられし大切な伽藍、  
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

## 社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震

株式会社 カナメ  
http://www.caname-jisha.jp

■ 本社	栃木県宇都宮市平出工業団地38-52	電話：028-663-6300
■ 名古屋支店	愛知県一宮市森本4-15-23	電話：0586-71-2882
■ 岡山営業所	岡山県岡山市北区今8丁目13-13	電話：086-245-2541



ZENSOUSEI 20th

全曹青  
レポート

# 平成25年度 定期評議員会・中央研修会 定期総会 開催報告

## 定期評議員会

平成25年5月13日午後1時半より、曹洞宗檀信徒会館3F桜の間に於いて、定期評議員会が行われました。松岡広也第19期会長からの退任にあたっての挨拶の後、12日執行部会、理事会を経て上程された議事、

(1)平成24年度事業及び決算報告、監査報告の審議・議決。(2)第20期執行部及び監事の審議・議決。(3)平成25年度事業計画案・予算案が審議・議決され、櫻井新会長のもと、新体制執行部がスタートしました。続いて、会長選挙委員会、災害復興支援部、「観世ふおん」特別委員会、国際特別委員会の設置報告。「東日本大震災活動報告書 平成23・24年度」(全曹青災害復興支援現地本部)の配布・報告。また、これまで復興支援活動の拠点であった「災害復興支援部現地本部」(福島県伊達市成林寺内)の機能が、宗務庁管轄の「曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室(福島市内)」に移管され、今後も継続して災害復興支援にあたることが報告されました。並びに「東日本大震災三回忌慰霊行事」の報告、「宗門の現勢と未来に関するアンケート」の回答と総括がなされました。

## 中央研修会

翌日、定期評議員会に引き続き、中央研修会が3部構成で開催されました。第1部では、「全曹青災害復興支援部と曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室の今後」について、松岡前会長、久間前顧問から説明がありました。(P6)「どう変わった?全曹青の災



中央研修会の様子

害復興支援活動」で詳しく記載されています)

第2部の参加者全員で行うシミュレーションでは、「8月1日に長野県上田市で震度6強の直下型の地震が発生した」想定でそれぞれの役割をロールプレイしました。ロールプレイ参加者には「被災地域寺院」「被災地外支援者」「支援曹青会」「各種団体(NPO・全社協・共同募金会・SVA等)」といった役割が与えられ、各種団体には「プレハブ」や「ホワイトボード」といったアイテムカードが用意されます。ロールプレイ中、被災地とそれ以外の地域はパーティションで分けられ、向こう側がどのような状況にあるのか、お互いに見ることが出来ません。パーティシヨ



ンの前には、ホワイトボードが置かれ、マスコミ・Twitterの情報、支援部・分室の情報等が徐々に貼りだされていきます。支援曹青会は、これらの情報を元にアイテムカードを集め、自身の曹青会に事務所を開くことが最初の目的に。その後、被災地への乗り入れ許可証などを手に入れ、炊き出しなどの直接的な支援に向かうこととなりますが、このシミュレーションでの発災日は「8月1日」という、すぐにお盆が来る、寺院の忙しい時期の発災を想定していたため、まずは、支援にお盆の前に入るのか、後に入るのか? そう言った現実在即した判断をしてみてくださいはなりません。短い時間・限られた情



評議員会の様子



定期総会の様子

ている曹青会の生の声に参加者一同耳を傾けていました。

### 定期総会

中央研修会の後、午後1時半より、定期総会が行われ、平成24年度事業及び決算報告、平成25年度事業計画案及び予算案の承認、

第20期執行部の承認、特別委員会の設置報告など、すべての議事が多数の出席者により承認可決されました。また、平常時から情報共有を行うための「全曹青災害復興支援部災害メーリングリスト」への登録が呼び掛けられました。

## 第3回執行部会・委員会総会・理事会・特別委員会 開催報告



6月17日・18日の両日、曹洞宗檀信徒会館において第3回執行部会・委員会総会・理事会・特別委員会が開催されました。

執行部会では、総合企画委員会・広報委員会・40周年記念事業実行委員会・特別委員会（「観世ふおん」特別委員会、国際特別委員会、災害復興支援部）のこれまでの活動報告及び今後の活動予定についての発表がなされました。また、総合企画委員会からは、「受発送業務委託について」「アンケート

ト葉書について」「頒布物追加について」、広報委員会からは「全日仏青冊子の『SOU SEI』への同封について」「発送に関する確認（賛助金依頼文・封筒デザイン）について」などの審議が行われました。

また、各委員会に所属する委員が一同に会する、期に一度の機会である委員会総会では、委嘱状の伝達、今期の全体方針や災害復興支援活動の概要、各委員会の活動方針などの説明がなされた後、各委員会に分かれての会議が活発に行われました。

理事会は、執行部会で発表・審議された内容を元に進められ、40周年記念事業の柱である「海外徒弟研修会」「味来食堂く僧食を学ぼう（料理教室）」「傾聴研修会」や、各委員会から執行部会で提案された審議事項、災害メーリングリスト、ストックヤード事業等に関する災害復興支援活動について審議されました。



報の中からのような支援ができるのか模索するシミュレーションとなりました。ある参加者からは「支援組織のフロー表を作成しよう」という声上がり、九州からの参加者は「長野までは距離があるため旅費や時間がかかる。それならば、被災地域近くの曹青会に物品や物資を輸送したほうが役に立つのでは？」などと提案するなど、それぞれの地域でそれぞれの支援方法を実際の問題として捉え、模索している様子が伺えました。

その後、第3部として山口・静岡第一・東三河曹青会の代表者をパネラーに迎えて、大山前副会長・久間前顧問を交えたパネルディスカッションが行われました。ディスカッションでは、被災地で精力的に活動をされ

# 会計報告

## 平成25年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出予算(案)

期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

歳入総額 33,940,000 円  
歳出総額 33,940,000 円  
差引残額 0 円

款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
1	基本運営費		5,970,414	5,933,496	△ 36,918	
	1	会費	1,462,500	2,925,000	1,462,500	
		1.同上	1,462,500	2,925,000	1,462,500	
	2	補助金	4,507,914	3,008,496	△ 1,499,418	
		1.前年度繰越金	4,507,914	3,008,496	△ 1,499,418	
2	事業費		27,509,586	28,006,504	496,918	
	1	賛助費	7,500,000	7,500,000	0	
		1.同上	7,500,000	7,500,000	0	
	2	助成金	15,500,000	15,500,000	0	
		1.事業助成金	15,000,000	15,000,000	0	曹洞宗宗務所より
		2.協賛金	500,000	500,000	0	広報誌広告協賛金
	3	事業収入	4,500,000	5,000,000	500,000	
		1.同上	4,500,000	5,000,000	500,000	諸事業
	4	雑収入	0	0	0	
		1.委員会運営費雑収入	0	0	0	
	5	雑収入	9,586	6,504	△ 3,082	
		1.同上	9,586	6,504	△ 3,082	預金利息等
合 計			33,480,000	33,940,000	460,000	

款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
1	基本運営費		10,480,000	10,330,000	△ 150,000	
	1	会議費	1,000,000	1,000,000	0	
		1.役員会	500,000	500,000	0	執行部会、理事会
		2.総会	500,000	500,000	0	評議委員会、総会
	2	執行交通費	7,600,000	7,900,000	300,000	
		1.役員会	4,200,000	4,200,000	0	執行部会、理事会
		2.評議員	2,200,000	2,200,000	0	2.2期 定期、臨時評議員会
		3.渉外交渉費	1,200,000	1,500,000	300,000	曹洞大仏、全日仏青年会等
	3	全日仏青年会運営費	500,000	250,000	△ 250,000	
		1.負担金	500,000	250,000	△ 250,000	全日仏青年会負担金
	4	事務費	830,000	880,000	50,000	
		1.通信費	300,000	300,000	0	郵便料、振込手数料等
		2.複写費	300,000	300,000	0	複製等
		3.消耗品費	150,000	200,000	50,000	事務用消耗品等
		4.備品費	80,000	80,000	0	
	5	雑費	50,000	50,000	0	
		1.同上	50,000	50,000	0	
	6	予備費	500,000	250,000	△ 250,000	
		1.同上	500,000	250,000	△ 250,000	
2	事業費		23,000,000	23,610,000	600,000	
	1	委員会運営費	5,750,000	6,150,000	400,000	
		1.聯合企画委員会	1,550,000	1,750,000	200,000	
		2.広報委員会	2,700,000	2,700,000	0	
		3.法廷委員会	1,500,000	1,500,000	0	
		4.周年事業委員会	1,700,000	1,700,000	0	
	2	事業費	5,500,000	6,000,000	500,000	
		1.本部事業費	4,000,000	4,500,000	500,000	花まつり、諸事業等
		2.研修会開催費	500,000	500,000	0	中央研修会等
		3.種文化学研習費	1,000,000	1,000,000	0	
	3	広報費	10,000,000	9,500,000	△ 500,000	
		1.編集費	3,100,000	3,000,000	△ 100,000	広報誌編集費
		2.印刷費	2,500,000	2,500,000	0	広報誌印刷
		3.発送費	4,000,000	3,500,000	△ 500,000	広報誌送料
		4.封筒制作費	400,000	500,000	100,000	業務封筒、事務用封筒
	4	助成金	600,000	500,000	△ 100,000	
		1.曹洞大仏助成金	600,000	500,000	△ 100,000	北海道、九州、東北、中国
	5	雑立金	600,000	410,000	△ 190,000	
		1.ボランティア基金	100,000	100,000	0	
		2.次期執行部準備金	500,000	300,000	△ 200,000	
		3.その他	0	10,000	△ 10,000	
	6	雑費	50,000	50,000	0	
		1.同上	50,000	50,000	0	
	7	予備費	500,000	1,000,000	500,000	
		1.同上	500,000	1,000,000	500,000	
合 計			33,480,000	33,940,000	460,000	

\*他、各項目間の流用を認めらるものとす。

【基金】 ボランティア基金 3,938,651円  
周年事業基金 5,000,000円  
次期執行部準備金 931,014円  
全国曹洞宗青年会 会長 櫻井 尚孝  
会計 松本 尚仁

## 平成24年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出決算 報告

期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日

歳入総額 36,896,090 円  
歳出総額 33,887,594 円  
差引残額 3,008,496 円

款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1	基本運営費		5,970,414	5,945,414	△ 25,000	
	1	会費	1,462,500	1,437,500	△ 25,000	
		1.同上	1,462,500	1,437,500	△ 25,000	
	2	補助金	4,507,914	4,507,914	0	
		1.前年度繰越金	4,507,914	4,507,914	0	
2	事業費		27,509,586	30,950,676	3,441,090	
	1	賛助費	7,500,000	8,088,500	588,500	
		1.同上	7,500,000	8,088,500	588,500	1,421件
	2	助成金	15,500,000	15,300,000	△ 200,000	
		1.事業助成金	15,000,000	15,000,000	0	曹洞宗宗務所より
		2.協賛金	500,000	300,000	△ 200,000	広報誌広告協賛金
	3	事業収入	4,500,000	7,442,911	2,942,911	
		1.同上	4,500,000	7,442,911	2,942,911	諸事業
	4	雑収入	0	116,843	116,843	
		1.委員会運営費雑収入	0	116,843	116,843	
	5	雑収入	9,586	2,422	△ 7,164	
		1.同上	9,586	2,422	△ 7,164	預金利息等
合 計			33,480,000	36,896,090	3,416,090	

款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1	基本運営費		10,480,000	9,007,021	△ 1,472,979	
	1	会議費	1,000,000	583,159	△ 416,841	
		1.役員会	500,000	117,328	△ 382,672	執行部会、理事会
		2.総会	500,000	465,831	△ 34,169	評議委員会、総会
	2	執行交通費	7,600,000	6,639,020	△ 960,980	
		1.役員会	4,200,000	3,039,800	△ 1,160,200	執行部会、理事会
		2.評議員	2,200,000	2,007,200	△ 192,800	年2回 定期、臨時評議員会
		3.渉外交渉費	1,200,000	1,792,020	592,020	曹洞大仏、全日仏青年会等
	3	全日仏青年会運営費	500,000	600,000	100,000	
		1.負担金	500,000	600,000	100,000	全日仏青年会負担金
	4	事務費	830,000	747,913	△ 82,087	
		1.通信費	300,000	214,342	△ 85,658	郵便料、振込手数料等
		2.複写費	300,000	429,337	129,337	複製等
		3.消耗品費	150,000	31,111	△ 118,889	事務用消耗品等
		4.備品費	80,000	73,123	△ 6,877	
	5	雑費	50,000	36,929	△ 13,071	
		1.同上	50,000	36,929	△ 13,071	
	6	予備費	500,000	200,000	△ 300,000	
		1.同上	500,000	200,000	△ 300,000	全日仏青年会負担補助
2	事業費		23,000,000	24,880,573	1,880,573	
	1	委員会運営費	5,750,000	6,750,000	1,000,000	
		1.聯合企画委員会	1,550,000	1,550,000	0	
		2.広報委員会	2,700,000	2,700,000	0	
		3.法廷委員会	1,500,000	1,500,000	0	
	2	事業費	5,500,000	5,575,541	75,541	
		1.本部事業費	4,000,000	4,141,406	141,406	花まつり、諸事業等
		2.研修会開催費	500,000	434,135	△ 65,865	中央研修会等
		3.種文化学研習費	1,000,000	1,000,000	0	
	3	広報費	10,000,000	9,500,382	△ 499,618	
		1.編集費	3,100,000	2,835,160	△ 264,840	広報誌編集費
		2.印刷費	2,500,000	2,643,472	143,472	広報誌印刷
		3.発送費	4,000,000	3,683,566	△ 316,434	広報誌送料
		4.封筒制作費	400,000	338,184	△ 61,816	業務封筒
	4	助成金	600,000	500,000	△ 100,000	
		1.曹洞大仏助成金	600,000	500,000	△ 100,000	北海道、九州、東北、中国
	5	雑立金	600,000	3,100,000	2,500,000	
		1.ボランティア基金	100,000	1,000,000	900,000	
		2.次期執行部準備金	500,000	100,000	△ 400,000	
		3.その他	0	2,000,000	2,000,000	前年度事業基金へ
	6	雑費	50,000	0	△ 50,000	
		1.同上	50,000	0	△ 50,000	
	7	予備費	500,000	454,650	△ 45,350	
		1.同上	500,000	454,650	△ 45,350	預金利息等
合 計			33,480,000	33,887,594	407,594	

【基金】 周年事業基金 5,000,000円  
次期執行部準備金 931,014円  
ボランティア基金 3,943,651円  
災害復興支援部 141,429円  
内本年度収入金 4,329,449円 平成25年3月31日  
全国曹洞宗青年会 会長 松岡 広也  
会計 杉山 大輝

### 40周年記念事業 特別会計歳入歳出予算(案)

期間 平成25年4月1日～平成27年3月31日

歳入総額 11,940,000 円  
歳出総額 11,940,000 円  
差引残額 0 円

【歳入の内訳】		△印は減(単位:円)	
款	項	目	本年度予算額
1.	事業費		11,940,000
	1.	事業費	5,000,000
		1.事業費	5,000,000
		1.事業費	5,000,000
	2.	助成金	6,000,000
		1.事業助成金	6,000,000
	3.	事業収入	435,000
		1.雑収入	135,000
		2.一般対象事業	200,000
		3.記念誌広告料	100,000
	3.	その他	505,000
		1.雑収入	500,000
		2.雑収入	5,000
		合計	11,940,000

【歳出の内訳】		△印は減(単位:円)	
款	項	目	本年度予算額
1.	事業費		11,940,000
	1.	青少年救済事業	3,500,000
		1.事業費	200,000
		2.現地交流会経費	500,000
		3.交通費	1,800,000
		4.参加補助費	1,000,000
	2.	雑収入	3,295,000
		1.事業費	200,000
		2.会場費	2,000,000
		3.講師謝礼	160,000
		4.交通費	800,000
		5.弁当代	135,000
	3.	一般対象事業	2,700,000
		1.事業費	200,000
		2.会場費	500,000
		3.講師謝礼	200,000
		4.交通費	1,600,000
		5.食料費	200,000
	4.	記念式典事業	500,000
		500,000	会場費等
	5.	記念誌事業	1,100,000
		1.編纂費	400,000
		2.印刷費	500,000
		3.取付費	200,000
	6.	広告費	600,000
		1.編纂費	400,000
		2.印刷費	200,000
	7.	その他	245,000
		1.予備費	245,000
		合計	11,940,000

### 平成24年度 全国曹洞宗青年会 周年事業基金 報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

歳入総額 5,000,000 円  
歳出総額 0 円  
差引残額 5,000,000 円

【歳入の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
前年度繰越金	3,000,000		
本年度積立金	2,000,000		
合計	5,000,000		

【歳出の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
40周年記念事業	0		
合計	0		

### 平成24年度 全国曹洞宗青年会 次期執行部準備基金 報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

歳入総額 1,289,962 円  
歳出総額 358,948 円  
差引残額 931,014 円

【歳入の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
前年度繰越金	1,189,962		
本年度積立金	100,000		
合計	1,289,962		

【歳出の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
会議費/交通費	358,948		出向予定者
合計	358,948		

以上の通り報告致します。

平成25年5月14日

全国曹洞宗青年会 会長 松岡 広由 様  
幹事 杉山 大樹 様

監事報告

平成24年度全国曹洞宗青年会 一般会計及び基金会計について、平成25年4月15日に曹洞宗青年会本部にて、会長、幹事長ご出席のもと、総務課、経理・総務課を初めとしたところ、収入・支出・残高ともそれぞれ照合し、異議にかつ疑問に感じられていたことを報告致します。

平成25年5月14日

全国曹洞宗青年会 監事 櫻井 裕孝 様  
監事 神谷 俊英 様

### 平成24年度 全国曹洞宗青年会 ボランティア基金 報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

歳入総額 12,097,856 円  
歳出総額 8,154,205 円  
差引残額 3,943,651 円

【歳入の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
前年度繰越金	6,768,407		平成23年度より
本年度積立金	1,000,000		全曹青一般会計より
本年度支援金	4,329,449		69件、アクリルタワシ購入代金2,622個含む
合計	12,097,856		

【歳出の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
見舞金・支援金	3,233,170		
災害復興活動費	4,921,035		行旅・炊出し・ワークショップ・ストックカード事業
合計	8,154,205		

\*ストックカード事業に関しては、赤い羽根がラサが事業より借入金手元あり。

【歳出の内訳】		(単位:円)	
項目	金額	備考	
茨城県曹洞宗青年会	30,000		慈善災害見舞金
大分県曹洞宗青年会	30,000		慈善災害見舞金
福岡県曹洞宗青年会	30,000		慈善災害見舞金
熊本県曹洞宗青年会	30,000		慈善災害見舞金
京都曹洞宗青年会	30,000		慈善災害見舞金
山口県曹洞宗青年会	200,000		福島こどもリフレッシュ保護プログラム補助金
東北地区曹洞宗青年会連絡協議会	500,000		復興活動支援金
東日本大震災災害対策委員会	1,753,170		慈善復興祈願
船橋八角堂(慈善法業祭壇)	630,000		復興活動支援金
小計	3,233,170		
炊出し・行旅・復興活動費	4,921,035		復興支援活動費
ワークショップ			
合計	8,154,205		

### 平成24年度 全国曹洞宗青年会 災害復興支援部活動費 報告

平成24年4月1日～平成25年4月30日

歳入総額 6,041,131 円  
歳出総額 5,893,814 円  
差引残額 147,317 円

【歳入】		(単位:円)	
項目	金額	摘要	
災害復興支援部活動費	5,000,000		宗精庁
災害復興支援部活動費	1,000,000		赤い羽根 ボラサボ助成事業
繰越金	41,141		
合計	6,041,141		

【歳出】		(単位:円)	
項目	金額	摘要	
本部設備・備品費	2,889,222		プレハブ、光熱費、パソコンリース等
人件費	2,783,692		本部局員手当等
活動経費	220,900		車両費等
合計	5,893,814		

\*5月末 本部プレハブ撤去費用 146,842円(見積)

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。  
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

- 島根県第2
  - 18 萬松院 様
  - 24 観音寺 様
  - 59 清光院 様
  - 121 法海寺 様
  - 139 十楽寺 様
- 高知県・香川県
  - 18 藤林寺 様
- 愛媛県
  - 18 陽春院 様
  - 33 願成寺 様
  - 93 長命寺 様
  - 113 西禅寺 様
  - 116 法龍寺 様
  - 146 興雲寺 様
  - 148 正福寺 様
- 福岡県
  - 27 長音寺 様
  - 28 桂木寺 様
  - 158 報恩寺 様
- 大分県
  - 8 豊音寺 様
  - 134 長安寺 様
- 長崎県第1
  - 8 円福寺 様
  - 78 宝泉寺 様
- 長崎県第3
  - 101 南明寺 様
- 佐賀県
  - 92 清心寺 様
  - 117 本光寺 様
  - 213 瑞光寺 様
- 熊本県第1
  - 60 含蔵寺 様
- 宮崎県
  - 14 妙光寺 様
- 鹿児島県・沖縄県
  - 2 龍光寺 様
- 長野県第1
  - 105 福泉寺 様
  - 147 徳応院 様
- 335 陽泰寺 様
- 長野県第2
  - 386 西福寺 様
  - 400 長久寺 様
  - 420 金松寺 様
  - 474 長桂寺 様
  - 512 浄蓮寺 様
  - 551 多宝院 様
  - 565 阿弥陀寺 様
  - 594 地藏院 様
- 福井県
  - 27 龍澤寺 様
  - 47 瑞祥寺 様
  - 69 龍門寺 様
  - 272 洞善寺 様
  - 297 満願寺 様
- 富山県
  - 32 全龍寺 様
  - 54 大淵寺 様
- 新潟県第1
  - 342 光照寺 様
  - 344 玄德寺 様
  - 358 円光寺 様
  - 364 永明寺 様
  - 368 正通寺 様
  - 384 庄川寺 様
  - 397 善昌寺 様
  - 439 林興庵 様
  - 475 天昌寺 様
  - 496 長楽寺 様
  - 728 妙喜寺 様
- 新潟県第2
  - 681 総源寺 様
- 新潟県第3
  - 521 松泉寺 様
  - 562 桐盛院 様
  - 597 林泉寺 様
  - 619 寶壽院 様
  - 646 名立寺 様
- 新潟県第4
  - 36 吉祥寺 様
  - 38 興泉寺 様
  - 53 英林寺 様
  - 189 東泉寺 様
  - 196 香伝寺 様
- 228 雲泉寺 様
- 239 千眼寺 様
- 263 海蔵寺 様
- 288 宝蔵寺 様
- 295 普濟寺 様
- 福島県
  - 3 陽林寺 様
  - 41 石雲寺 様
  - 44 玉泉寺 様
  - 46 龍傳寺 様
  - 94 松蔵寺 様
  - 99 茂林寺 様
  - 101 成林寺 様
  - 110 龍徳寺 様
  - 111 普光寺 様
  - 162 昌建寺 様
  - 174 龍穩院 様
  - 226 常隆寺 様
  - 263 慶徳寺 様
  - 318 安穩寺 様
  - 324 松泉寺 様
  - 343 西勝寺 様
  - 401 常楽寺 様
  - 446 天宗寺 様
  - 461 正法寺 様
- 宮城県
  - 7 保寿寺 様
  - 9 瑞雲寺 様
  - 16 林香院 様
  - 113 繁昌院 様
  - 163 普門寺 様
  - 212 祥雲寺 様
  - 271 願成寺 様
  - 327 観音寺 様
  - 352 安永寺 様
  - 359 保昌寺 様
  - 371 頼光寺 様
  - 392 金秀寺 様
  - 414 虎溪寺 様
  - 418 光明寺 様
  - 425 通大寺 様
  - 432 耕田寺 様
  - 440 城國寺 様
  - 446 柳徳寺 様
  - 478 活牛寺 様
- 岩手県
  - 35 實相寺 様
  - 111 西泉寺 様
  - 120 菅生院 様
- 123 寶城寺 様
- 192 常堅寺 様
- 216 善龍寺 様
- 226 長林寺 様
- 250 對泉院 様
- 252 柳玄寺 様
- 290 長泉寺 様
- 青森県
  - 44 高沢寺 様
  - 45 全龍寺 様
  - 74 浮木寺 様
  - 101 聖福寺 様
  - 110 長昌寺 様
  - 119 大安寺 様
  - 189 乗照寺 様
- 山形県第1
  - 13 建昌寺 様
  - 88 智鏡寺 様
  - 93 性源寺 様
  - 113 洞興寺 様
  - 142 陽春院 様
  - 238 西来院 様
  - 241 福昌寺 様
- 山形県第2
  - 285 泉高院 様
  - 315 永泉寺 様
  - 346 長福寺 様
- 山形県第3
  - 468 宗伝寺 様
  - 477 福寿寺 様
  - 534 東福寺 様
  - 639 慶全寺 様
  - 672 妙泉寺 様
  - 679 光岩寺 様
  - 718 長測寺 様
  - 738 善応寺 様
- 秋田県
  - 26 洞泉寺 様
  - 49 乗江院 様
  - 79 東林寺 様
  - 136 長谷寺 様
  - 179 長泉寺 様
  - 181 黄龍寺 様
  - 184 護昌寺 様
  - 196 春光寺 様
  - 203 瑞雲寺 様
  - 206 松雲寺 様
  - 220 雲巖寺 様
  - 260 松庵寺 様
  - 261 見性寺 様
  - 265 倫勝寺 様
  - 302 天昌寺 様
  - 313 立昌寺 様
  - 321 鏡得寺 様
  - 341 金浦寺 様
- 北海道第1
  - 18 高聖寺 様
  - 25 龍穩寺 様
  - 45 延命寺 様
  - 75 禅源寺 様
  - 88 玉宝寺 様
  - 90 含笑寺 様
  - 96 観音寺 様
  - 327 大宥寺 様
  - 468 養福寺 様
- 北海道第2
  - 239 禅昌寺 様
  - 313 洞源寺 様
  - 338 大仙寺 様
  - 359 東明寺 様
  - 419 龍門寺 様
  - 454 大禅寺 様
- 北海道第3
  - 203 西来寺 様

## ボランティア基金感謝録

平成25年4/1～6/28 取扱い分

東京都 青松寺 様

# 賛助費浄納御芳名簿

平成25年4/1～6/28取扱い分

## ●東京都

3 俊朝寺 様  
6 光宝寺 様  
17 龍澤寺 様  
88 全龍寺 様  
105 鳳林寺 様  
106 観泉寺 様  
160 喜運寺 様  
177 清巖寺 様  
239 宗保院 様  
294 観栖寺 様  
312 光明寺 様  
333 雲慶院 様  
337 天澤院 様  
345 正法院 様  
371 円明寺 様

## ●神奈川県第1

285 泉秋寺 様

## ●神奈川県第2

2 西有寺 様  
5 天徳院 様  
15 陽光院 様  
171 常昌院 様  
390 善光寺 様

## ●埼玉県第1

14 守光院 様  
19 宝積寺 様  
44 宝持寺 様  
64 寿楽院 様  
92 浄山寺 様  
93 光秀寺 様  
190 廣徳院 様  
394 香林寺 様  
418 全久院 様

## ●埼玉県第2

207 蓮光寺 様  
283 長泉寺 様  
319 永源寺 様  
368 東昌寺 様  
567 観音寺 様

## ●群馬県

3 龍海院 様  
144 雙松寺 様  
194 善宗寺 様  
285 桃林寺 様  
311 泉通寺 様  
317 心洞寺 様

332 戒禅寺 様  
338 龍松寺 様

## ●栃木県

1 成高寺 様  
43 東光寺 様  
46 龍昌寺 様  
185 本願寺 様

## ●茨城県

1 祇園寺 様  
41 大雄院 様  
46 長松院 様  
61 一閑寺 様  
134 大統寺 様  
182 龍心寺 様  
197 長龍寺 様

## ●千葉県

10 流山寺 様  
20 福壽院 様  
21 観音寺 様  
29 慶林寺 様  
30 興陽寺 様  
185 勢國寺 様  
194 中滝寺 様  
198 太高寺 様  
212 真光寺 様  
243 最勝福寺 様  
315 雲龍寺 様  
333 西方寺 様

## ●山梨県

45 永昌院 様  
115 海潮院 様  
392 慈照寺 様

## ●静岡県第1

77 龍泉院 様  
97 法幢寺 様  
109 玉泉寺 様  
126 一乗寺 様  
148 源光院 様  
175 霊山寺 様  
180 秀源寺 様  
185 光明寺 様  
391 十輪寺 様  
394 萬松院 様  
421 盤脚院 様  
459 洞雲寺 様  
464 正泉寺 様  
495 普門院 様

501 養徳寺 様  
528 盤石寺 様

## ●静岡県第2

259 常雲寺 様  
267 修禅寺 様  
319 源光院 様  
329 永昌寺 様  
362 福泉寺 様

## ●静岡県第3

585 成因寺 様  
608 養勝寺 様  
629 大覚寺 様  
766 正法寺 様  
1208 法雲寺 様

## ●静岡県第4

1081 盛福寺 様  
1177 礼雲寺 様

## ●愛知県第1

15 大光院 様  
18 大運寺 様  
75 松音寺 様  
101 成福寺 様  
108 香積院 様  
115 桃巖寺 様  
127 龍潭寺 様  
156 地藏寺 様  
200 日光寺 様  
202 世尊寺 様  
251 玉雲寺 様  
267 陶昌院 様  
312 本曾寺 様  
313 長松寺 様  
342 常楽寺 様  
354 廣濟寺 様  
635 永澤寺 様  
675 妙昌寺 様  
1092 地藏寺 様  
1163 秋葉寺 様  
1164 弘禅寺 様  
1241 観音寺 様

## ●愛知県第2

684 花井寺 様

## ●愛知県第3

431 報恩寺 様  
438 吉祥寺 様  
484 興昌寺 様

## ●岐阜県

28 観音寺 様  
51 天徳寺 様  
81 北辰寺 様  
99 霊泉寺 様  
122 大龍寺 様  
133 福寿寺 様  
154 瑞現寺 様  
188 洞泉寺 様  
189 久昌寺 様  
190 長久寺 様  
236 全超寺 様  
245 良守寺 様

## ●三重県第1

6 常在院 様  
24 一心院 様  
83 涼泉寺 様  
113 神楽寺 様  
114 海禅寺 様  
188 廣泰寺 様  
246 宝泉院 様  
269 大蓮寺 様  
284 常安寺 様  
293 池溪寺 様

## ●三重県第2

387 瑞岩寺 様  
408 東正寺 様

## ●滋賀県

113 徳圓寺 様  
205 秀隣寺 様

## ●京都府

70 護国寺 様  
161 禅福寺 様  
236 善光寺 様  
378 徳昌寺 様  
389 万福寺 様

## ●大阪府

12 印山寺 様  
61 大廣寺 様  
94 黄梅寺 様

## ●奈良県

68 景德寺 様

## ●和歌山県

20 三宝寺 様

## ●兵庫県第1

30 岡本寺 様  
49 福巖寺 様  
308 寶珠寺 様  
315 長松寺 様  
338 勝龍寺 様  
369 大龍寺 様  
439 誕生寺 様

## ●兵庫県第2

115 慈眼寺 様  
121 徳寿寺 様  
173 瑞雲寺 様

## ●岡山県

3 長川寺 様  
4 威徳寺 様  
5 景福寺 様  
10 長連寺 様  
28 洞松寺 様  
59 観泉寺 様  
131 済渡寺 様

## ●広島県

1 国泰寺 様  
7 伝福寺 様  
22 光禅寺 様  
46 雙照院 様  
93 賢忠寺 様  
102 潮音寺 様  
118 長善寺 様  
146 福善寺 様  
175 雲龍寺 様  
181 東明寺 様  
185 明福寺 様

## ●山口県

24 吉祥寺 様  
25 弘濟寺 様  
111 溪月院 様

## ●鳥取県

1 興雲寺 様  
17 普含寺 様  
82 吉祥院 様  
146 妙楽寺 様  
159 大祥寺 様  
197 永福寺 様

## ●島根県第1

295 妙義寺 様



## 第37回 東海管区曹洞宗青年会大会

### 「願生生死」

被災地のいまと私たちのこれから

去る平成25年6月26日、蒲郡市民会館大ホールで第37回東海管区曹洞宗青年会大会を開催いたしました。主催は東三河曹洞宗青年会が務めさせていただきました。

今大会は「願生生死」被災地のいまと私たちのこれからをテーマとして、一般の方がたも共に東日本大震災と原発、放射能汚染について学んでいただくこと、また被災された方の生き方に触れることで、今後私たちが生きていく上で大きな支えとなればよいと願って企画されました。

当日は東日本大震災物故者法要に始まり、最初に福島県同慶寺住職田中徳雲師に「One Love」東日本大震災、フクシマから何を学ぶのか」としてご講演いただきました。休憩を挟み続いて中部大学武田邦彦教授より「報道が決して国民に伝えないもの」と題してご講演もいただきました。

田中師のご講演では、被災をされた経験と

その後の生き方を学ばせていただきました。被災地の人々の思いと国の考えにずれがある話は印象に残りました。切々と話す師のお話を、聴講された方がたも真摯に受け止めておられるようでした。

武田教授には原発の問題と解決策を中心に、放射能汚染に関する知識や、今の私たちの生き方へのアドバイスをいただきました。全体では長時間となる大会であり、来場者の負担も大きく心配しておりましたが、教授のお話は大変興味深いもので、また笑いも交えてあり誰もが最後まで集中している様でした。

想定していた参加人数を超えて多くの方にお集まりいただき、共に学べたことを大変嬉しく思います。

思いやりと生きる力を持って帰れた、良い大会であったと思います。



# 第43回九州曹洞宗青年会総会 佐賀大会

平成25年6月12日、ホテルニューオータニ佐賀(佐賀市)で、第43回九州曹洞宗青年会総会佐賀大会が開催されました。総会に先立ち、平成22年8月28日に遷化された九曹青初代会長佐賀県長徳寺長井福雄老師の追悼法要が厳修され、出席者全員で初代会長の遺徳を偲びました。

総会には、全曹青より櫻井尚孝会長、膝館晋哉副会長、岩崎哲秀副会長も出席され、佐賀曹青・長井峰宗師を議長に選出し議事進行がなされ、以下の議案が提案され承認されました。

- 第4号議案 役員改選
- 第5号議案 平成25年度事業計画(案)
- 第6号議案 平成25年度予算(案)
- 第7号議案 その他

議案承認の後、各県よりの活動報告、全国曹洞宗青年会、九州管区教化センターよりの諸連絡が行われました。

今回の総会では、任期満了による役員改選が行われ、第20期会長に熊本県円通寺住職田中光頭師が推薦され、総会により承認を受け就任される事となりました。

新会長は早速、「九州は一つ」「生きる力・命の力を取り戻す」をスローガンに掲げられ、新執行部が発足する事となりました。

総会の後、露の新治氏による講演「お笑い人権講座―笑顔でくらす・願いに生きる」を拝聴いたしました。

「人間は見かけや血筋、家柄や国籍で差別するべきではない。自信は自惚である。頑張るは願生る(がんばる)である。一人一人が願いに生きる、願われて生まれてきたのだから、願生って(がんばって)いれば自然と差別の意識はなくなっていくものである。」とご自身の経験や立場よりのお話を拝聴いたしました。

総会・講演後、同ホテル内で理事会が開かれ、新理事紹介後、全曹青との意見交換が行われ議論が交わされました。全日程終了後、同ホテルで懇親会が行われ各県曹青会員それぞれに親睦を深めました。



- 第1号議案 平成24年度事業報告
- 第2号議案 平成24年度会計報告
- 第3号議案 会計監査報告



## 管区大会レポート

### 九州管区

# 總持寺拜登レポート



6月19日、櫻井尚孝会長、岩崎哲秀副会長、安達瑞樹副会長、松岡広也顧問、倉島隆行事務局長が大本山總持寺に拜登しました。今回は總持寺遠忌事務局長から来る平成27年に奉修される予定の「大本山總持寺二祖 峨山留碩禪師650回大遠忌」の概要をご説明いただき、「全曹青にも、来る大遠忌に向けて積極的に企画を提案・実行し、参画してほしい」とのご意見を賜りました。また、乙川暎元監院老師からも「若い青年僧侶の柔軟な発想で、皆で遠忌を迎える」という企画を提案してほしい」とのお言葉を頂戴いたしました。櫻井会長からは「全曹青では今期40周年記念事業を計画しております。震災から2年以上経過した今でも被災地では苦しんでいる方が沢山いらっしゃいます。遠忌記念事業の中にも被災地への思いや祈りを提案させていただきます。全曹青のスケールメリットを生かした企画を今後考えて参ります」と提案させていただきました。



全曹青では、この程の大遠忌に資する事業の企画提案に前向きに取り組み、『SOUSEI』や『般若』を通して積極的に発信してまいりたいと考えております。

## ■次号予告

### 新連載

#### 『現代的「講」モデルの参究』

今、人口の減少、地域経済の縮小、核家族化の進む中、長く寺院を支えてきた、いわゆる「檀家制度」も揺らいできています。そのような中で発災した東日本大震災。被災地の様子が報道され、全国的な支援の輪が広がる中、「人と人とのつながり」「地域の絆」が再評価され、ソーシャルネットワーク（SNS）などを利用したゆるやかな「つながり」を指向する若年層の増加がみられます。

一方、曹洞宗の活動に目を転じると、戦後創始された「梅花講」は、曹洞宗及び各寺院の興隆に大いに寄与してきておりますが、同時に若い世代への活動の継承や、講の継続の難しさなどの課題も出てきているといえます。また、インターネットを介して「禅に親しむ」人同士のコミュニケーションが活発になりつつあり、新しい「講的組織」の萌芽も見られるとの報告があります。

次号以降の『SOUSEI』では、曹洞宗総合研究センター専任研究員・平子泰弘師をアドバイザーにお迎えし、将来、寺院運営の基盤になり得る可能性を秘めている組織形態として、あらためて「講」に焦点を当て、現代社会に存在する「講的組織」の事例研究にも多角的に取り組みながら、現代的「講」の在り方について情報提供をしてまいります。どうぞ、ご期待ください。

## 訂正

『SOUSEI』161号の記事に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。  
11頁写真キャプション  
誤)西だ敏行氏 → 正)西田敏行氏

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで...  
どんなことでもお電話で  
ご相談下さい。

Tel 080-1546-7464  
Tel 080-1547-5646  
毎週日曜 22:00 ~ 24:00  
※相談料は無料(通話料は必要です)

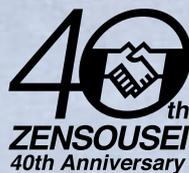
両大本山御用達  
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘嚴・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号  
(大須交差点東北側)  
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904



# 全曹青40周年

## 全曹青の足跡を訪ねて(1)



全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）は1975年発足、今期の2015年には40周年を迎えます。このコーナーは、記念の節目を迎えるにあたって、改めて全曹青の成り立ちや規模、その想いや歴史を探っていく連載です。

### ■全曹青とは？

1975年（昭和50年）、初代会長に門脇允元師（宮城）を迎え発足。最初の年間メインテーマは「大衆教化の接点を求めて」。全国各地での宗侶を対象とした研修、一般向け公開講座の開催とともに、1978年（昭和53年、第2期）に芝増上寺で開催された世界仏教青年同盟（WFBY）日本大会参加、韓国・インド・東南アジア各国・中国訪問順への使節団派遣など海外に向けた活動もいち早く開始されている。1978年に大本山總持寺で開催された禅文化学林は、全曹青の一大行事として全国各地を開催地としながら現在まで続いている。

第20期を迎えた現在、曹洞宗の18才から41才までの青年宗侶が全国から参集し、執行部と各委員会を構成。また、加盟47各青年会から管区理事・評議員が加わることで、全国の青年会を繋ぐ連絡協議体としての機能も併せ持つ。  
（今期の委員会新編成、震災復興関連の活動などについては2～6頁を参照）

### ■全曹青設立の動き

曹洞宗青年会推進委員会（門脇允元委員長）による一年余にわたる準備期間を経て、1975年10月2日、宗務庁3階大会議室で発起人183人による発起人総会が開催された。設立の趣旨説明で門脇委員長は、

・曹洞宗青年教化連合会（曹青連）の禅の集い運動を基盤とする  
・（当時）発言、地位を認められていない未任職者・学生宗侶・兼職宗侶のエネルギーの結集とする  
・新たに設立委員会を組織し、以後の活動を委ね、本日の出席者全員がともに歩み、助け合う道友となつて欲しい



と呼び掛けられた。

この日の会議では、「曹洞宗青年会」の名称の承認とともに、「目的と基本方針」会員と機構「事業・結成大会」「その他」の議案が2時間及び審議され、全国青年宗侶に対する「決議文」を採択した。

### 【発起人総会決議文（原文のまま引用）】

われら宗門人は宗旨に遵い、常に両祖の示訓を帯して時代即応の教化活動を行つて来た。しかし現代は人心の荒廃によつて極度の混迷をきたし、人類そのものの生存の危機すら予見される到つたのである。この時期に際会して我々曹洞宗の青年宗侶は、人類救済の誓願に立つて、曹洞禅による人間の覚醒を果たさんとし、曹洞宗青年会の結成を発願したのである。

およそこの青年会の運動は、日本全国はいうに及ばず、世界の全ての地域であらゆる階層にわたつて展開されるものであり、青年宗侶一人一人の道心に支えられた行動こそ唯一不二の推進力であると確信するものである。

この見地に立つて我々発起人は全国一万人の青年宗侶の自覚を促し、道友諸師のエネルギーの結集こそが急務であることを認識し、本日只今より直ちに行動を開始し曹洞宗青年会の結成へ邁進し、もつて祖道の興隆に寄与することを決議する。

以上は、同年11月に発行された『曹青通信』創刊号（曹洞宗青年会設立委員会発行）に記された、曹洞宗青年会今の全曹青設立前の様子です。熱気に包まれた会議の中で結集された、新しい全国組織発足に向けての並ならぬ決意と情熱が感じられます。

宗門内部からは、当時の田辺哲崖宗務総長が総会当日に講演された中で、

「今こそ、諸君の如きいわゆるヤングパワーの新しい時代感覚をもつて、この激動する社会に答えなければならぬと思うのです。（中略）またその自覚がなければ明日の世代に答える宗教ではあり得ないというそしりをまぬがれないと存じます」

と、期待とともに、若い感覚を以つて社会の要請に対応する自覚を促されております。

宗門外部からは、佐々木宏幹先生（現、駒澤大学名誉教授）が『曹青通信』創刊号に寄稿された文の最後に

「テーマは無数にあるが、まず、『現代の曹洞宗宗教者とはなにか』さらに『われわれは現代になにをなすべきか』というような課題に自分の全てをささげだしてみることが必要である。（中略）外に向けての恰好のよい運動よりも、すべてが参加してムンムンたる雰囲気をかもしだすことこそ先決であるといえなからうか」

と、宗教者としての立ち位置の確立とともに、時代の中で青年宗侶たちが全力で立ち向かうことを期待されておられます。

高度成長期の昭和50年代、物質文化の発展と精神的混迷を深める時代の中で曹洞宗青年会が萌芽したのは、必然だったのかもしれない。

文・広報副委員長 宮入真道

# 災害復興支援部 ニュースレター



まず始めに、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の災害復興支援活動等に関しまして、各曹青会並びに宗務庁・宗務所、宗門内外の多くの皆さまにご支援・ご協力賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

全曹青特別委員会「災害復興支援部」では、第20期スローガン「繋がる想いが未来を拓く」に基づき、「全曹青ボランティア憲章」の想いを全国会員に繋ぎ、曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室（以下、復興支援室分室）と連携し、東北各地の復興支援のみならず今後起こりうる災害に備え防災減災を目指し、お互いが支え合う社会の実現に向けて活動して参ります。

前年度までの活動従事者は延べ3,922人でした。主な活動としては、①物資支援活動②炊き出し③一般ボランティア④寺院復旧活動⑤臨時読経供養⑥行茶（傾聴ボランティア）活動⑦原発事故による避難者へのサマーキャンプ開催⑧除染ボランティア⑨釜石ベントアートプロジェクト⑩ストックヤード整備事業などがあります。

今年度ですが、引き続き行茶活動を中心に活動して参ります。本来仮設住宅での生活は2年間ですが、諸事情により延長生活を余儀なくされている被災者の方がたに対する心のケアは、まだまだ必要とされています。東北以外の地域での報道等は、自ら積極的に情報を得ようとしないうり見聞きする機会は格段に減っており、風化させては

いけない」という言葉すら聞こえてこなくなりました。更には、被災地で復興支援活動を続ける団体も減っています。これから復興住宅や災害公営住宅に生活の拠点が移るにつれ、地域コミュニティの再構築も必要になるかも知れません。また、仮設住宅に残らざるを得ない被災者の方への支援も欠かすことはできません。

また未来を担う子ども達に対しては、各地の曹青会主催で開催されるサマーキャンプ事業「子ども自然ふれあい広場」をサポートしてまいります。被災体験を持つ子ども達への長期的なケアが求められている中、特に原発事故による影響が大きい「ふくしまの子ども達への短期保養プログラムを推進し、子どもの心身ケアのみならず、その保護者のストレス軽減にも寄与することを考えています。

さて、震災以来様々な情報の中で、被災地のことは被災地で解決すればいい」という言葉を目や耳にします。それはそうだと思うところもありますが、まだその時ではありませぬ。解決できる自治体と人はごく一部に過ぎません。被災地内での支え合いには限界があります。

全国各地からの活動従事者が、被災地から帰宅し一息つくことができるのはもちろん被災者ではないからです。そして、私達が貴重な時間とお金をかけて支援活動を行っていく上で、やはり家族や仲間の支え

が大きな原動力になっています。その支えの大きさに一人一人が気付いていたら：是非皆さまには今後とも復興支援活動にご理解いただき、行茶活動と同じく被災者一人一人に寄り添う長期的な視野に立った活動に対し、ご支援とご協力を賜りますようお願いよろしく申し上げます。

災害復興支援部事務局長 伊藤和貴





■会長 櫻井尚孝

第20期会長をつとめております櫻井尚孝です。今期は40周年という節目に当たります。通常会務は勿論のこと、40周年事業にも全身全霊をもって取り組む所存です。多くの会員諸兄と共に、手を携え繋がって前を向き、未来を拓く努力を重ねてまいります。皆さま方からの信頼と負託に応えるべく日々精進いたします。素より浅学非才の身ではございますが、何卒ご指導ご鞭撻を願いたします。どうぞ2年間よろしくお願い申し上げます。



■副会長 安達瑞樹

兵庫第二宗務所青年会より参加させていただき3期目となります。思えば多くの方と耳を澄まし、新たな一歩を踏み出してきたこの4年間は、私自身の大きな力となりました。そして今期は、曹青会さま同志の更なる繋がりに重きを置き、東北各地の復興支援のみならず、今後起こりうる災害に備え、発災時に迅速かつ正確な情報を共



有することができるとネットワークを構築いたします。いま全国と繋がる想いを皆さまと共に紡ぎ、未来を拓いて参ります。ご協力、よろしく願ひ申し上げます。

■副会長 岩崎哲秀

僕は旅することが好きで、色々な場所に赴くことで自分を再発見しています。静かな呼吸の中に自分がいればいいですが中々難しいのが現状です。なぜか辿り着いた先が『全曹青』という大きな駅で、実に面白い人間が集うプラットフォームでした。全国の各青年会の活動に驚き、只々感銘を受けるばかりです。まだまだ先の見えない震災や災害からの復興、そして防災と減災に向けて、できることをできるだけ行っていきたいです。



■副会長 膝館晋哉

ご縁をいただき40周年の節目となる今期、青森県曹洞宗青年会より参加させていただいております。東日本大震災の復興支援の一助となる継続的活動を心掛け、全国の会員皆さまとともに復興支援、災害対策に尽力してまいります。皆さまには、全曹青へのご法愛と、復興支援への益々のご協力、更には40周年事業への積極的なご参加



をお願いいたします。2年間どうぞよろしく願ひします。

■総合企画委員長 原 知昭

第20期総合企画委員長を拝命いたしました。原と申します。当委員会の主たる事業である頒布活動は、全国会員の皆さま、全国御寺院様と直接繋がりを感ずることができ、また当会の活動を周知していただく意義のある事業であります。40周年という機縁に際し諸先輩方の思いを受け継ぎ、当会発展さらには全国会員諸師のために活動していく所存であります。2年間何卒よろしく願ひ申し上げます。



■広報委員長 長岡俊成

40周年を迎える節目の年に、広報委員長の職を務めることができるというご縁をいただき、大変感謝しております。前期は、副委員長として「全曹青会員の顔の見える広報」を目指してまいりましたが、今期はそれに加えて「熱い想いが伝わる広報」を目標に設定いたしました。近年、普及が目覚ましいネット媒体と紙媒体を有機的に連動させながら、少しでも全曹青が読者の皆さんにとって身近な組織となるよう、また「想いを繋げる広報活動」となるよう、会務に励んでまいります。



皆さんからのご助言・ご感想を是非ともお寄せください。また、よろしく願ひ申し上げます。

■40周年記念事業実行委員長 荒木道宗

当会も第20期を迎え、40周年を迎えます。この機縁に際しまして40周年記念事業実行委員長を拝命いたしました。荒木でございます。私自身も40を迎え、この周年事業を担当させていただくご縁に感謝を深めているところであります。全国曹洞宗青年会も不惑を迎え、これからの活動はより確実に、そして社会に資する団体たるべく、存在価値を高めて行かなければなりません。皆さまのご法援をいただきつつ、会発展の為に精進する所存であります。どうぞ全国より、当会に良き追風を送っていただきます様、願ひ申し上げます。



■事務局長 倉島隆行

「全曹青が大好きです」と櫻井会長がご挨拶されたとき、私も心の中で大きく頷きました。この会を通して出会う全国の諸師は、苦悩する現代社会に対して何かしなければと葛藤し、行動する熱い志を持った方ばかりだからです。私が特に感銘を受けた第18期基幹事業である傾



聴研修会。第20期でもこういった素晴らしい出会いの場を企画して参りますので、皆さまも熱い心でのご参加をお願い申し上げます！

■事務局次長 山田俊哉

秋田県曹洞宗青年会より3期目の参加をさせていただくこととなりました。1期目の執行部でも、2期目の広報委員会でも、皆さまの全曹青に対する非常に熱い想いに驚き、少しでもお手伝いさせていただきたく、必死にモニタのカーソルを動かしてまいりました。今期は櫻井会長の会議ペーパーレス化構想にも関わります。一番熱い倉島事務局長に付いていけるよう、一層会務に励みたいと思っております。よろしく願ひします。



■会計 松本尚仁

静岡第三同志会より参加しています松本尚仁です。第20期会計を力の限り勤めさせていただきます。全国曹洞宗青年会は、会員の皆さま、また、『S O U S E I』をお読みの皆さまのご支援によつて支えられています。本会をもっともお気軽にご利用、またご活用していただき、皆さまとの距離感をより近づけていく事ができたらいいなあと考えています。よろしく願ひいたします。



## 東日本大震災三回忌頒布事業

### 『鎮魂の光珠』頒布終了のお知らせ（お礼）

平成25年3月11日に開催された東日本大震災三回忌の慰霊行事「音と祈り、未来への光」(主催：全日本仏教青年会 主管：全国曹洞宗青年会)で舞台祭壇上に奉安され、当日の参列した僧俗約1,200人の方がたのみならず、全世界から寄せられた震災物故者への追悼供養と、一刻も早い被災地復興への祈りを集光した『鎮魂の光珠』。

慰霊行事終了後から、全国的な分灯拡散をするための頒布事業を進めておりましたが、5月29、30日の『平成25年度曹洞宗梅花流全国奉詠大会』での会場頒布を以て、準備数500セットをすべて頒布し終えました。

ご購入をいただいたみなさま、当該事業にご理解とご協力を賜ったすべてのみなさま方に、厚く御礼を申し上げます。

今後、大震災の悼みと祈りの薄光を放ち続ける『鎮魂の光珠』が、ご購入下さった方がたのそれぞれの生活拠点において、大震災の記憶と祈りを繋ぎ続けられる一助となることを祈念して止みません。

### 東日本大震災 鎮魂の誓い

共に悼みます 失われた命を  
共に祈ります 別れた命の安らぎを  
共に忘れません その輝いていた命を  
共に縁り添います 同じ命を生きる証に

## 編集後記

161号で編集後記を書かせていただいた私が、何故か続けて今号でも編集後記を書くことになりました。奇特なご縁です。

40周年という節目の年を迎える、第20期全曹青の新体制が発足・始動いたしました。櫻井新会長の下、「繋がる想いが未来を拓く」をテーマに、この2年間を進んでいくことになりました。

人と人との関係の希薄化・多様化が叫ばれる現代、「想いを繋げる」ということは、簡単な様でいて実は大変なことだと最近、切に感じます。また、想いというものには、蜘蛛の巣の目のように四方八方、いや「尽十方」に広がりを見せる途方もなく大きなものだとも思います。

全曹青という組織が誕生して40年という月日の間に、どれだけ「想い」を受けて育ってきたことでしょうか。期待、希望、感動、時には挫折や叱咤……。年月を経る毎に人は変われど、全国の曹洞宗青年宗侶を繋ぎ、先頭を歩んできた諸先輩の想いや願いを、20期の私たちも継承しています。今期の広報委員会では、40年の歩みと想いを今を生きる青年僧の方がたに紹介しつつ、全曹青と新たな想いとのお会いを結び一助となれるよう、活動して参りたいと考えています。よろしくお願ひ申し上げます。

合掌 (広報委員長 宮入真道)



■表紙の話

全曹青創立以来の活動方針「大衆教化の接点を求めて」を踏まえ、雲水が修行道場から乞暇し、社会に向けて力強く一歩踏み出す様子を表現しました。

表紙撮影：谷杉アキラ  
協力：国華山高龍寺

## 全国曹洞宗青年会

### 第二十一期会長選考について(公募)

会長選考委員会に於いて、会則並びに細則に従って左記の事項が決定されました。全国曹洞宗青年会第二十一期会長に立候補する者は、左記の要綱に従い、立候補届けを完了して下さい。

全国曹洞宗青年会 第二十一期会長選考委員会 委員長 神谷俊英

全国曹洞宗青年会 第二十一期選考委員会 届出要綱

- 一、立候補届並びに履歴書の提出
- 二、立候補者の曹洞宗青年会における経歴書の提出
- 三、推薦状 ①管区曹青会代表者
- ②曹青会代表者
- 四、立候補に当たつての執行方針の提出
- 五、立候補届出先

「全国曹洞宗青年会 第二十一期選考委員会 委員長 神谷俊英」宛  
〒〇六一―二二八二

北海道札幌市南区藤野二条九丁目五―一 含笑寺内

電話 〇一一―五九一―八四五―

- 六、立候補届け出期限 平成二十六年一月三十一日(金)必着
- 七、立候補届け出方法 必ず郵便書留でお願いいたします。
- 八、選考委員会構成員

選考委員長 神谷俊英 (北海道管区理事)  
選考副委員長 青木彰徳 (北信越管区理事) 田中光顕 (九州管区理事)  
選考委員 櫻井尚孝 (第二十期会長) 渡辺和弘 (東北管区理事)  
鈴木泰仁 (関東管区理事) 渡津恵正 (東海管区理事)  
森 孝基 (近畿管区理事) 城市泰紀 (中国管区理事)  
里野和敬 (四国管区理事)

\*会則につきましては『般若』に掲載しております。



ZENSOUSEI